宮水道８０４号
令和７年３月５日

宮古島地下水研究会
共同代表　友利直樹　前里和洋　新城竜一　様

宮古島市長　嘉数　登

「命の水」地下水・水道水農薬複合汚染対策を求める要請書について（回答）

【要請事項】
水道水源原水フェニルピラゾール系及びネオニコチノイド系農薬複合汚染、水道水ネオニコチノイド系農薬複合汚染に対する緊急の対策として、予防原則に則り、ネオニコチノイド系及びフェニルピラゾール系化学農薬成分や PFAS 等環境化学物質低減・除去の為、袖山及び加治道浄水場に、高機能活性炭浄水処理設備等高度浄水処理施設を早急に整備して下さい。

【回答】
本市には袖山・加治道の２カ所に浄水処理施設があり、これらを高度浄水処理施設の導入候補地と考えております。現在、対象施設から供給される末端浄水３カ所と水源地 13 カ所において、PFOS 及び PFOA、フィプロニル、ネオニコチノイド系農薬等の水質調査を年４回実施しております。

測定結果は、水道水質管理目標値である PFOS 等 50ng/ℓ以下、フィプロニル 500ng/ℓ以下、ネオニコチノイド系農薬等 200,000ng/ℓ以下を大きく下回る濃度となっております。（水道部 HP 掲載）

また、高度浄水処理施設の導入に関する補助事業については、PFOS 等の除去施設が補助対象事業となりますが、当該農薬成分の除去施設は補助対象外です。さらに、現時点でいずれの濃度も目標値を下回っているため、除去施設建設の妥当性が確認されておらず、要請には至っておりません。

今後、全国的な調査が進み、知見が集積され、国や県から具体的な方針が示されるなど情勢が変化した場合にも対応できるよう、水道原水水質のモニタリング調査を継続しながら状況を注視してまいります。仮に測定値が経年的に上昇する傾向が見られた場合は、実証実験や施設設置について対処していく方針です。

その一方で、近年の水道水質については、多くの市民の皆様から不安や懸念の声が寄せられております。こうした声に真摯に向き合い、不安を払拭するため、まずは地下水に関するシンポジウムを開催いたします。本シンポジウムでは、本市の水道水質の現状や考え方を説明するとともに、国及び県等関係機関の見解を示しながら、市民の皆様と共に宮古の地下水について理解を深め、安全性への信頼を築いてまいります。